



▶ 3月21日に甲子園球場で開幕する「第84回選抜高等学校野球大会」に出場予定。若干あどけなさの残る笑顔が印象的な早稲高校2年生。ポジションは捕手。168cm、70kg。福智町赤池出身。

いつも見守ってくれるふるさとに 恩返しができるよう頑張ります。

早稲高校2年 江藤悠馬さん

元 福岡ダイエーホークスの大越基監督の指導を受けるため、ふるさとを離れて山口県早稲高校に進学した江藤悠馬選手。毎日5時間の過酷なトレーニングをこなす、見事甲子園への夢の切符をつかみ取りました。父の背中を追い求め続けてきた17年間。今回、その大きな壁を越えるために挑戦します。

父の教えを胸に

江藤悠馬選手が野球を始めたのは小学2年生の時。江藤選手の父・仁さんがコーチとして就任するのをきっかけに、地元の少年野球チーム「赤池ジュニアベアーズ」に入部しました。仁さんも赤池育ち。少年時代は江藤選手と同じグラウン

同郷の友と夢の甲子園へ
遠く離れた山口の地で、江藤選手が頑張れる理由の一つに、同郷のライバルの存在があります。今

「やらされている」と感じて欲しくなかったの……と仁さん。江藤選手の高校進学時には、前年に監督に就任し、スポーツ心理学なども学んでいる大越基監督(元福岡ダイエーホークス)の指導する早稲高校を選択。現在、16時から21時まで、グラウンド60周に加え、腹筋、背筋、スクワットなどのトレーニングを1千500回ほどこなすハードな毎日ですが、仁さんの教えのおかげで「野球をやめたいと思ったことは一度も無い」と言い切ります。
「今回の甲子園出場は、日ごろの練習の成果が実を結んだもの。努力は裏切らないと信じています。」

回の早稲高校のベンチ入り選手中、7人が筑豊出身。中でも宮崎竜之介主将(赤池出身)とは、中学時代に「赤池ベアーズ」で共にプレーしていました。実は江藤選手と宮崎主将の父同士もまた、かつて東海大五高から共に甲子園に出場した仲間同士。数年前は、家族ぐるみで旅行にも出かけたそうです。
「宮崎くんのお父さんの提案で、旅先でもユニークな訓練をしました。田川には、いつも僕らを見守ってくれる人がたくさんいます。これからもみなさんに感謝しながら、夢であるプロ野球選手を目指し、いずれは福智の子どもたちに野球指導ができたらと思っています。」
父のかつての戦場、甲子園のグラウンドで、夢への新たな一歩を踏み出す江藤選手。「ふるさとに恩返しができるよう、精いっぱい頑張ります」と気を引き締めました。



④ 1月31日に一時帰省し、浦田弘二町長に出場報告。⑤ 宮崎主将(左)と恩師の安在監督と共にマスコミ取材を受ける江藤選手。

町の観光大使も務めるIKKOさんが、11月3日のコンサートの収益金で、福智の子どもたちへ計167冊の図書を寄贈。町内8校の全小中学校に「IKKO文庫」のコーナーが設けられました。写真はIKKOさんの出身校である伊方小と方城中の「IKKO文庫」。



表紙の人

日々ひたむきに練習に励む細川未久さんと小池智央さん。九州大会のダンスワールド部門で抜群の表現力を発揮し、準決勝まで進んだ細川さんは「バントワリングの魅力を多くの人に知ってもらえるよう今後も頑張りたい」と話しました。



以前の人気コーナー「福智人」が拡大版として復活!

特集◎ **福智人**
ふくちのひと【拡大版】

「つらいことも多かったけれど、だからこそ乗り越えるために努力できる。涙がわたしを成長させてくれました。」
福智町出身のIKKOさんが11月3日に故郷のステージで語った一言だ。
挑む人は、必ずどこかで壁にぶつかる。その壁を乗り越えた時に未知なる自分の可能性が切り開ける。挑戦なくして苦悩はない。苦悩なくして成功はない。
今の特集では、そんな挑戦を続けている「福智人」たちの胸の内に迫った。

